まちづくり情報誌
たんと TANTO
No.51
発行 令和4年6月10日
安浦町まちづくり協議会　〒737-2516　呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内)　電話:0823-84-2261(年4回発行)

図書館レポート

コロナ疲れの今こそ 安浦図書館へ行こう

呉市安浦図書館は安浦市民センターの２階にあります。
本はもちろん新聞や雑誌なども置いてあり、誰でも自由に見ることができます。
雑誌やテレビなどで話題の本など読みたいものがあれば、リクエストすることが可能です。また、調べたい事があれば、気軽に図書館員さんに相談すれば関連する本などを紹介してもらえます。
図書館は本との新しい出会いの場であり、発見の場でもあります。本との出会いが自分のものごとへの考え方、見方に影響をあたえます。本を読むことで新しい知識を得たり、小説の主人公になりきって、現実には体験することができないことができたり、相手の気持ちを理解することができるようになり、人に優しくなれるように思います。
ちなみに私は、学生時代に三浦綾子著「塩狩峠」「氷点」司馬遼太郎著「竜馬がゆく」などを読んでとても感動したのを覚えています。
皆さんも本との新しい出会いをしてみてください。

定休日　毎週木曜日・祝日
開館時間　9時30分から18時
詳細は、図書館にお問い合わせください。
☎0823-84-3806

新地域おこし協力隊員の紹介!!

今年4月、安浦町地域おこし協力隊に着任した鈴木よしこさんは、東京をはじめ、パリやロンドンなどの５か国でアパレル経験を積んだスタイリストです。現在でも、パーソナルカラー診断と骨格診断から、その人にあったファッションを提案しています。協力隊に着任する１年ほど前からSUP(サップ)を体験していた鈴木さんは、「安浦町からファッションとマリンスポーツの可能性を地域外へ発信できたらいいですよね。」と笑顔で話してくれました。
都会の良さ、安浦町の良さを知る鈴木さんならではの活動が楽しみですね。鈴木隊員をよろしくお願いします。

▲カラー診断中の鈴木さん

▲安浦の海でもサップ練習中

鈴木よしこ

広島県呉市安浦町出身。
SUPを通じて出会った縁から、地域おこし協力隊制度を知り、地元安浦町で活動したいと帰ってきました。

SUPとは？
スタンドアップ･パドルボードの略称。大きめのボードに乗り、立った状態でパドルを漕ぎ水面を進んでいく新しいスポーツです。

パーソナルカラー診断とは？
生まれ持った肌や髪、瞳、質感などを見て、それと調和し魅力を引き出す色のことをいうシステムです。似合う色がわかると、肌をキレイに見せ、好印象を作り出すことができます。

恋し安浦 大好き安浦!

＼ できました！ついにできました。 ／

●「安浦の昭和史～里や海・昔の言葉まで懐かしい匂いがする～」
●山本譲の「懐かしい安浦の風景を歩こう～三津口編～」

ともに安浦町まちづくり協議会が一年をかけて作りました。

▲「安浦の昭和史～里や海・昔の言葉まで懐かしい匂いがする～」2022(令和4)年3月発行

昭和の時代は第2次世界大戦、高度成長期と激動の時代。1944(昭和19)年、野路村・内海町・三津口町が合併し安浦町が誕生。鉄道が敷かれ、海兵団や十一空廠安浦工場ができ、やがて終戦。高度成長期には国道185号線やバイパスができ、町も様変わりしてきました。地域のお祭りや人々の生活のありようも変化しました。
写真集の写真は町の方に呼び掛けて各家庭から提供していただいたものや、安浦町時代に保管していたものを抜粋しました。また、ウオーキングマップは山本譲が16歳から呉海軍工廠で働いて、退職後から描き続けた絵の三津口編です。

写真も絵も昭和をありありと伝えてくれます。この昭和の記録をもとに皆で語り合い、町並みを歩き、一世代前の営みを確かめ、次の若い世代に伝え贈りたいものです。海の幸、山の幸に、あったかい人あふれる安浦はええとこで！と。

6月23日から7月6日まで安浦まちづくりセンターロビーで、西日本豪雨災害の写真とその後の復旧の写真を、災害を忘れず防災を伝えるためにパネル展示をします。どうぞ、見に来てください。

▲山本譲の「懐かしい安浦の風景を歩こう～三津口編～」

やすうら記憶遺産 第24話

牛の売買（飼牛売買）

「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲（1904-1994）の400枚以上にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取組みです。
まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016（平成28）年No.28／９月号から連載を始め、今回で24回目のお話となります。

農耕用の家畜は、西日本では牛、東日本では馬が一般的でした。この絵は、山本譲が自らの幼少期の体験をもとに描いています。大正時代のことでしょう。

「春や秋の農閑期、牛の売買をする者がやせた牛を引いてやってくる。すると、近所の親父たちが５、６人集まり、袖の中に手を通して手指で牛の値段を話し合う。このくらいでどうかのう、と。やがて売買が決着すると一同が賛同の手を打って、みなで酒盛りをする。」と、山本譲自身が絵の説明を書き残していました。

かつて中国地方の山間地帯、九州中部の山間地、四国の南部などに子牛を産する地域が集中していました。生まれた子牛を一定期間農家などに預けて使役、肥育させ、豊かに育ったら市場で売る「牛小作（うしこさく）」という中世以来の古い慣行が安浦町にもあったことがうかがえます。

牛の売買や仲介をする家畜商を馬喰（ばくろう）といい、本来は〈取り替える、交換する〉という意味が含まれるそう。牛と共に旅する古い形態の職業です。各地を歩き世間を見てきた馬喰らと酒を酌み交わし、見聞を広げるのも売買の楽しみのひとつであったことでしょう。

手芸一色！ 谷キルトサークル

▲三津口郵便局の展示作品

4月20日㈬、三津口手芸同好会改め谷キルトサークルにお邪魔しました。先生は変わらずお元気で「昨年は皆さんと20周年のお祝いをしたんですよ」と、笑顔で語ってくださいました。

「谷キルトサークル」という洗練されたネーミングに生まれ変わり、先生も教室もすっかり若返ったような雰囲気でした。最近では、三津口郵便局へ作品を飾らせてもらっているのだとか、やはり多くの方に見てもらえれば一層の励みになるようです。先生の長女で三原市在住の優子さんは、毎月第1第3水曜日には欠かさず教室を手伝っています。彼女は母親ゆずりの手芸の腕前と朗らかな性格で、生徒さんのサポート役です。

母娘の心遣いのすべてが、この教室の魅力になっているのだと感じました。谷先生、その魔術師のような手で、これからも安浦に手芸を広めて行ってほしいです。

和太鼓フェスin呉が行われました!!

**2022（令和４）年４月24日(日)グリーンピアせとうちにて【和太鼓フェス in 呉】が開催されました。
その様子を主催の和太鼓グループ Japanese Drum 和☆Rock のメンバーが紹介させていただきます♪**

和太鼓フェス in 呉とは…？？

安浦町を拠点とし活動しているJapanese Drum 和☆Rock。コロナ禍で演奏の機会も無くなっていく中で、「１人でも多くの方に元気になってもらいたい」「１人でも多くの方の笑顔がみたい」「大好きな安浦町を盛り上げたい」そのために私たちができることを…と模索し、昨年初開催しました。２回目となる今回は、広島県内から13の太鼓団体や10店舗の出店もあり、一緒に盛り上げていただきました♪

当日は雨が降り止まず、少し肌寒い中、力強い太鼓の音・エネルギッシュな掛け声・出店者からの「頑張れ！」の声、お客様からの本当にあたたかい拍手、声援。全てが会場中に響き渡り、寒さなんて忘れるくらいの熱気に包まれました。今回のフェス開催にあたり、支えてくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました!!

前日リハーサルも無事終わり、ステージ・会場準備、仮設トイレの設置等も全て終了していました。

開催の決定にあたり、天気予報が全く安定しない中ではありましたが、雨が止むことを信じて開催を決定しました。結果として天気予報は当たらず、雨が降り続いたため、延期になったと思われたお客様も多かったようです。フェスを楽しみにしてくださっていた皆様に、開催決定のお知らせが遅れてしまったこと、申し訳ございませんでした。次回の【和太鼓フェス ｉｎ呉】は10月23日㈰に開催を予定しています。またこの場所で皆様にお会い出来るのを楽しみにしています!!!